



## あとがき



「元号が昭和から平成に変わり、1つの時代が終わり新たな時代が作られようとしています。核データの分野では待望久しかったJENDL-3が今年完成する運びとなり、シグマ委員会としても1つの節目を迎えようとしています。このような時期に”核データニュース”の編集委員に加えて頂いた事は、光栄の至りであり反面その責任の重さを痛感しています。”核データニュース”はその前身である”JNDCニュース”から数えると創刊以来23年の歴史を有しており、まさに諸先輩の努力の賜物と云えるでしょう。今後とも、その努力を無にしない様、本誌のより一層の充実を図っていくつもりです。また、読者の方々も本誌を核データ関係の情報交換の場として大いに利用頂ければと思います。(柴田 恵一)これは私が本誌の編集委員としてデビューした1989年2月号 (No.32) の「あとがき」です。途中3年間OECD/NEAへの出向で休職しましたが、1998年10月号まで編集委員を務めさせて頂きました。従って、約20年振りのカムバックとなります。再任編集委員としての抱負は上記の「あとがき」と全く変わりません。今後とも本誌を核データ関連の情報交換の場として利用できる様に努力していきますので、宜しくご協力をお願い致します。

本誌は情報交換という性格上、会議・研究会の記事が殆どを占めます。この6月号ではそれらに加えて、河野俊彦氏に「テクニカル・コメント」、井頭政之氏に「読者の広場」に御寄稿頂きました。米国ロスアラモス研究所の中堅研究者であり、且つ、ENDF作成のキーマンである河野氏の統計理論に関する記事は第2弾（初回は、本誌 No. 110, 39 (2015).) であり、高速中性子エネルギー領域での核データ評価にとって重要な原子核理論に関して分かり易く説明して頂きました。学生さん及び核データ評価に関心のあるの方々にとっては、必読の解説となっております。近々、第3弾も御執筆頂けるそうで、乞うご期待です。一方、核データ測定の第一人者である井頭氏の記事は、東京工業大学に於ける最終講義の内容を纏めて頂いたものです。ペレット加速器との格闘に関しては最終講義よりも詳しく記述されており、高精度な核データを得るには大変な苦労が必要であることが分かります。その様な努力の結果得られた貴重な実験値を、一点も疎かにせず十分考慮するのが我々核データ評価に携わる人間の責務でしょう。

核データニュースは当然ながら皆様からの投稿で成り立っています。特に、「話題・解説」、「読書の広場」へのご寄稿をお願い致します。非常に個人的な感想で恐縮ですが、ここ何年かで最も興味深く読ませて頂いた記事は大塚直彦氏、河野俊彦氏の「核データ考古学」(本誌, No. 106, 72 (2013).)でした。著者の貴重なデータ収集に対する情熱を感じます。ただ、補正因子”Time-dependent Raccoon Correction (TDRC) [時

核データニュース, No.999 (2017)

間依存のアライグマ補正]”の真偽の程は定かではありませんが。詳しくは、同記事をお読みください。両氏には続編を期待しております。少々長めの「あとがき」になりましたが、重ねて、皆様方からのご投稿をお待ちしております。また、本誌に対するご要望・ご意見がございましたら是非ともお願い致します。

柴田 恵一 2017年6月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助（元放医研）、山野直樹（AsiaSEED）、石川 眞（原子力機構）、  
岩本 修（原子力機構）、大塚直彦（IAEA）、金 政浩（九大）、  
小浦寛之（原子力機構）、中村詔司（原子力機構）、横山賢治（原子力機構）、  
柴田 恵一（委員長、原子力機構）